



はれるんマガジン

～気象・地震に関わる素朴な疑問に答えます～ 発行：福岡管区気象台

今月のテーマ

気象業務150周年記念企画

気象庁・気象台ってどんな仕事をしているの？ -Part7-

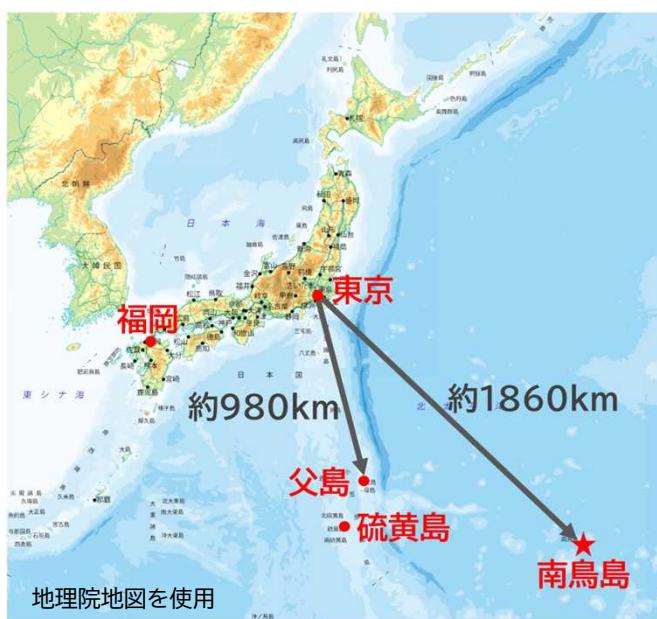
— 気象庁、こんな仕事もやっています！ —

気象庁は、1875年（明治8年）に東京気象台として気象業務を開始してから、2025年（令和7年）で150年の節目を迎えます！この節目に合わせて、はれるんマガジンでは気象庁・気象台の仕事や歴史を連載でご紹介します！最終回の第7回は、気象庁のあまり知られていない特殊な仕事を紹介します。

■こんな場所でも観測しています！ -南鳥島-

気象庁は南鳥島でも観測を行っています。南鳥島は日本の最東端に位置する、定住者のいない小さな島です。北西太平洋上の孤島で、人間活動の影響を受けない場所であることから、地球規模の大気環境の実態を把握し変化を早期に検出するとともに、予測情報を様々な利用者に提供することを目的に開始された「WMO全球大気監視（GAW）計画」における全球観測所（※）の1つとして、二酸化炭素、メタン、地上オゾン、一酸化炭素及びエアロゾル光学的厚さなどの観測を行っています。

※全球観測所：局地的また地域的な汚染の影響を受けない地点で気象や気候に影響を与える大気成分の地球規模での長期変化を明らかにすることを目的に設置されている観測所



地理院地図を使用

南鳥島の位置



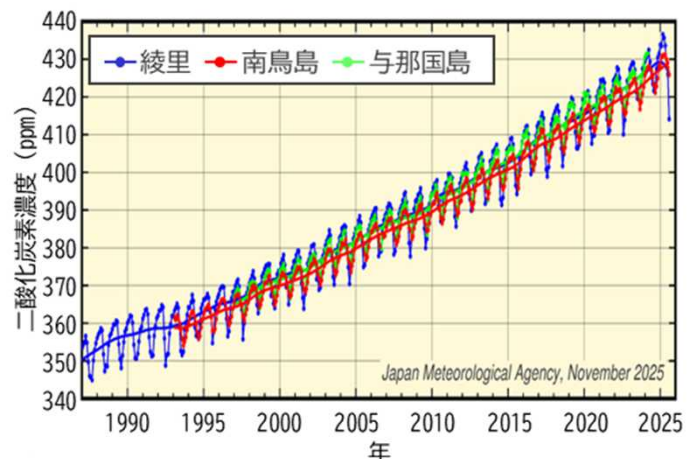
面積約 1.51km²（福岡ドーム約2個分）の島に、気象庁、海上自衛隊、関東地方整備局の職員約25名が勤務中。一般の人の上陸はできないんだ。



その他にも、地上気象観測や高層気象観測、日射放射観測を行っています。また、外国（太平洋沿岸）で発生した津波を日本沿岸に到達する前に捕らえるための監視も行っています。



南鳥島気象観測所



大気中の二酸化炭素濃度の経年変化

※気象庁では綾里(岩手県)、与那国島(沖縄県、2024年3月末で観測終了)でも温室効果ガス等を観測しています

■なんと、南極でも！

気象庁は南極の「昭和基地」へ1957年の第1次観測隊から毎年職員を派遣し、気象観測を行っています。現在は6名の職員を第66次観測隊・越冬隊員として派遣しています。昭和基地では、地上気象観測（天気・視程は目視観測）、高層気象観測、オゾン観測などを24時間体制で行っています。あわせて、天気図や集めた観測値を解析して、観測隊の活動に必要な気象情報を随時提供しています。



昭和基地(第61次南極地域観測隊員撮影)



観測機器(第64次南極地域観測隊員撮影)



オゾン観測(第64次南極地域観測隊員撮影)

■地磁気も観測しています！

気象庁は、地球電磁気学的手法でも地球環境の変動を監視しています。柿岡（茨城県石岡市）に本所をおく地磁気観測所では、全国4地点（柿岡、女満別（北海道大空町）、鹿で地磁気の強さと向きを常時観測しています。各地点の観測データは解析後、国内外に提

供され、地球内部や太陽活動の研究、航空機・船舶の安全運航の確保、人工衛星の安定運用、通信障害の警報、火山噴火予測などに活用されています。



観測所の位置



地磁気観測施設(柿岡)



磁気嵐情報
(地磁気観測所ホームページで公開)

■国際的な取組も行っています！

気象や地震・津波、地球温暖化などの自然現象は、国境を越えて広く影響を及ぼすため、国際的な連携が不可欠です。気象庁では、世界気象機関（WMO）などの国際機関における活動や、開発途上国への技術支援を通じて、世界の気象業務に貢献しています。例えば、台風情報や気象衛星画像など、各国が行う気象の解析や予報を支援する資料の提供を行っています。また、北西太平洋域で津波の予想があるときは、周辺各国へ津波情報を提供しています。さらに、各国の気象業務能力向上を支援するため、台風の解析・予測等に関する研修や、気象レーダーの維持管理・利活用に関する技術支援なども行っています。



WMOの会議で発言中の気象庁長官



台風の解析・予測に関する研修



気象レーダーに関する技術支援

■ 気象庁の中核となる職員を育てる、気象大学校！

気象庁には教育・研修専門の施設もあります。千葉県柏市にある気象大学校は、気象庁に勤務する職員が気象業務に必要な知識や技術を学ぶ教育・研修施設です。

大学部（4年制）では国家公務員として採用された学生に対して地球科学や防災行政などの授業を行い、将来気象庁の中核となる職員を養成しています。卒業時には学士（理学）の学位が授与され、卒業後は気象庁本庁または全国各地の気象台などに配属され、観測、調査、予報、研究などの気象業務に従事します。なお、入学により気象庁職員（国家公務員）として採用されますので、在学中も毎月の給与等が支給されます。

研修部（1年以内）では全国の気象官署ではたらく職員が専門知識や技術を向上させるための研修を行っています。



気象大学校

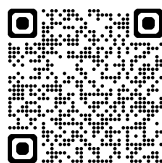


授業風景(大学部)



気象庁本庁での職場実習(大学部)

詳しくはこちら
(気象大学校HP)



5月から7回にわたりお届けしてきました『気象業務150周年記念企画：気象庁・気象台ってどんな仕事をしているの?』、ご覧いただきありがとうございました。

連載では、気象庁・気象台が日々取り組んでいるさまざまな業務をご紹介しましたが、まだまだお伝えしきれていない仕事がたくさんあります。気象庁の仕事は、空や海をはじめ幅広い分野にわたっており、みなさまの暮らしとも関わっています。今回の企画が、みなさまにとって気象庁・気象台や、気象・防災への関心を深めていただくきっかけとなれば幸いです。引き続き、はれるんマガジンをよろしくお願いします！



気象科学館のご紹介



気象科学館は、東京都港区・虎ノ門の気象庁本庁の建物の中にある、気象や地震、火山などの自然現象や防災を、体験を通じて学べる科学館です。

現在、「天気図企画展」を開催しており、基本的な天気図の見方を学ぶことができるほか、天気図作成も体験できます（2026年5月10日（日）まで）。

また、気象予報士の資格を持つ解説員が常駐しており、気象や展示などに関する疑問をたずねることもできます。東京にお出かけの際はぜひ行ってみてください！

☀ 施設情報

開館時間：午前9時～午後8時（事前予約不要）

休館日：毎月第2月曜・火曜 ※月曜が祝日の場合は火曜・水曜

年末年始（12月29日～1月3日）

8月は休館日なし

臨時休館あり

※同じ建物にある港区立みなと科学館と同じ開館・休館日です

入場料：無料

詳しくはこちら
（気象庁HP）



☂ 所在地

〒105-8431 東京都港区虎ノ門3-6-9 気象庁2階 気象科学館

次回の発行は2026年2月（1月はお休み）の予定です。

ご意見をお待ちしています

問合せ先

〒810-0052 福岡市中央区大濠1-2-36

福岡管区気象台地域防災推進課はれるんマガジン編集部

電話：092-725-3614

e-mail：fukuoka_bousaichosa@met.kishou.go.jp



2025年、気象業務は150周年を迎えます

次回の発行は2026年2月の予定です。